

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-133	A-162	22-095	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Associations between tobacco and alcohol use and aggressive behavior among adolescents in 55 Low- and Middle-Income countries 低・中所得国 55 カ国における青少年期のタバコ・アルコール摂取と攻撃的行動との関連			
<b>執筆者</b>			
Liu H, Ma X, Shi L, Wang J, Juan JTH, Ma D, Sun J.			
<b>掲載誌</b>			
J Affect Disord. 2023 May 15;329:519-524. doi: 10.1016/j.jad.2023.02.131.			
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>	
青少年、攻撃的行動、アルコール摂取、低・中所得国、喫煙		36868383	
<b>要 旨</b>			
<p><b>目的：</b> 攻撃的行動は、世界中の青少年における深刻な公衆衛生問題である。本研究は低・中所得国 (LMICs) 55 カ国の青少年におけるタバコやアルコールの使用と攻撃的行動との関連を評価することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b> 対象は 2009 年から 2017 年に Global School-based Student Health Survey (GSHS) を実施した LMICs55 カ国の 12~17 歳の青少年 187,787 人 (男子 49.2%) とした。自己報告式の質問票を用いて、攻撃的行動は過去 12 ヶ月間の身体的喧嘩の頻度、アルコールは過去 30 日間のアルコールを含む飲物を少なくとも 1 杯飲んだ日数、喫煙はタバコとタバコ以外の喫煙用タバコ製品の使用日数を調査した。解析は攻撃的行動の割合による群間比較は <math>\chi^2</math> 検定、喫煙およびアルコール摂取と攻撃的行動との関連は多変量ロジスティック回帰分析を用いて野菜、果物、炭酸飲料、ファストフードの摂取頻度を調整因子とした。</p> <p><b>結果：</b> 全対象者のうち攻撃的行動 5.7%、喫煙 16.3%、アルコール摂取 25.2%であった。過去 30 日間の喫煙者は非喫煙者と比較して、攻撃的行動と正の関連があった [1~5 日 オッズ比 (OR), 95%信頼区間 (CI); 2.00, 1.89-2.11)、6~9 日 (OR, 95% CI; 2.76, 2.48-3.08)、10~19 日 (OR, 95% CI; 3.20, 2.88-3.55)、20 日以上 (OR, 95% CI; 3.88, 3.62-4.17)]。また過去 30 日間のアルコール摂取者はアルコール非摂取者と比較して、攻撃的行動と正の関連があった [1~5 日 (OR, 95% CI; 1.44, 1.37-1.51)、6~9 日 (OR, 95% CI; 2.38, 2.18-2.60)、10~19 日 (OR, 95% CI; 3.04, 2.75-3.36)、20 日以上 (OR, 95% CI; 3.25, 2.93-3.60)]。</p> <p><b>結論：</b> 青少年において喫煙とアルコール摂取量の多さは攻撃的行動と関連した。本研究より、LMICs の青少年を対象とした喫煙とアルコール摂取を減らすための管理努力を強化することの必要性が示唆された。</p>			